イベント報告

アクロバット運営も無事成功

第8回全日本トレイルO選手権大会 2012年11月23日 長崎県大村市

高橋 厚

とにかく異例ずくめの運営を強いられた大会であった。これまでに7回開催された全日本トレイルO選手権のほとんどの運営に参画してきた私にとっても、初めての経験ばかりであった。

2013年11月23日(祝) 長崎県大村市
全日本トレイルO選手権大会

競技結果

Eクラス 総合クラス
- 優勝 鈴木規弘 多摩OL 24点 25.0秒
- 2位 伴 毅 京都OLC 24点 30.0秒
- 3位 山口拓也 浜松OLC 24点 33.0秒

Eクラスパラリンピッククラス
- 優勝 木島英登 豊中市 22点 106.0秒
- 2位 高柳宣幸 港南OLC 16点 153.0秒
- 3位 森 長三 長崎県TC 14点 116.0秒

Aクラス 総合クラス
- 優勝 岡野英雄 愛知OLC 18点 104.0秒
- 2位 大木 孝 みちの会 16点 24.0秒
- 3位 新城大樹 京葉OLC 16点 79.0秒

Aクラスパラリンピッククラス
- 優勝 海津良一 6点 123.0秒

Bクラス 総合クラス
- 優勝 井 和章 博多OLC 13点
- 優勝 岡部悦子 入間市OLC 13点
- 3位 鶴丸 史 11点

準備

遠隔地での開催

羽田から飛行機に乗ってしまえば2時間足らずとはいえ、長崎は日本の東に住んでいる者にとってはやはり遠い。

競技役員はすべて関東地区から

長崎県OL協会には競技役員の出来る方はほとんどいないため、競技役員6名はすべて関東地区から出向くこととなった。一方で地元からの応援役員は自衛隊をはじめ隊友会（自衛隊OB会)、大村城南高校、大村市役所などから20数名の応援をいただいた。

地図の作製は山川氏

地図の作製は（有）ヤマカワオーエンタープライズに委託し、約束通り1年前にゴルフ場のニューマップがほぼ完成した。素晴らしい地図が早期に完成したことでコース設定に非常に大きな助けになった。山川氏に感謝申し上げたい。

コース設定など準備の日数制限

費用の関係から長崎での準備・調査のための人員・日数が極端に制限され、これで本当に全日本に値するコースが組めるのか、非常に不安であり、提訴発生覚悟での作業を強いられた。

スタート地区までのバス輸送

集合場所の大村市役所から山の上のテレインまで約30分のバス輸送となり、時刻通りの輸送ができるかどうか、懸念材料の一つとなった。

一年中でもっとも日が短い時期

日本の西の方で日没は遅いとはいえ、大会当日は午後5時17分が日没時刻である。前年と前々年の同じ時期に現地で確認したところ、雨天など悪条件を考慮すると午後4時30分が競技時刻の限界であることが分かった。

トレイルO終了後にスプリント

トレイルOの競技終了後、同一テレインでスプリント競技が行われることになっており、もしトレイルOの競技が遅れた場合には最悪の場合、日没のためスプリントの中止に追い込まれる恐れも考えざるを得なかった。

営業中のゴルフ場での開催

なんといってもこのことが一番の問題だった。大村湾カントリー倶楽部ニューコース18ホールのうち、アウトの1番ホールから4番ホールまでを借りてテレインとした。ゴルファー最終組のスタートが通常14:30のところ、ゴルフ場のご厚意で1時間早めて13:30にしていただいたとはいえ、この時刻以降でないとテレインにも入れず、競技はおろかコントロールの設置もできないわけである。しかし最終組のプレーのすぐ後ろにつきながら、迅速に正確にフラッグやDP板、テープなどを取り付けるなんてことは初めての経験であり、また予行演習をするわけにもいかず、まったく確信の持てない薄氷を踏む思いの計画だった。コースプランナーの児玉と私が設置を担当し、補助役員として自衛隊員4名に付いてもらって、人的には万全の態勢を取った。

コースを前半・後半に2分割

Eクラスの競技時間150分を確保することには苦労した。何しろ13：30から最終ゴルファーのあとを追ってコースを設置し、その後から競技を始めたのでは150分の競技時間は全然取れない。

そこで一策を案じ、コースの前半約3分の1はフラッグをゴルフ場の森の中に立て、競技者はゴルフ場の外の道路を通りながらコントロールを

見るレイアウトとした。これによってコースの前半はゴルファーのプレーとは関係なくコントロールの設置や競技ができるようになり、ゴルフ場内での競技時間を約 3 分の 2 に減らすことができた。

前半・後半間の自衛隊による輸送

このために前半後半の間に輸送の必要が生じ、自衛隊に依頼して人員輸送トラックによる輸送を行うこととなった。これに乗られた方はおそらく初めての経験で、土産話の一つにもなったかと思う。

タイムキーパー担当役員

非常にタイトなスケジュールであり、仮に 1 つでも計画通りいかないと大会全体がぐらついて不成立に至ることは確実で、さらにはスプリントもできなくなることから、今までに例のないタイムキーパー（時間管理）担当役員(今井）を置き、進行を絶えずチェックしてすべてを計画通り進ませることに万全を期すこととした。

大会当日

恐れていた雨もほとんどなく、寒いながらまずまずの天候となった。

まず最初のトラブル。集合場所からスタートへのマイクロバスの 1 台が道に迷い、到着が遅れてしまった。バス会社のバスでなかったことが原因か。

前半コースは計画通りほぼ順調に進み、前半・後半の折り返し地点になるクラブハウスに来てみると、遅い予約を入れてしまったのでゴルファーの最終スタート 13：30 のところ 15 分くらいは遅れそうだとの支配人の話。これは大変、でも 15 分位なら何とかなるかと考えていると、ゴルフ場の進行担当者が、まだインコースから上がってきていない、その組が 30 分食事してからになるのでとても 15 分遅れでは無理、40～50 分遅れるだろうとのこと。冗談じゃない、これで後半のコースとスプリントは不成立になるかと観念した。

さすがに支配人も心配して最終組は食事なしでスタートしてもらうことで話をつけて下さり、多分 30 分くらいの遅れで最終組はスタートしていった。

前半･後半間の待機時間が長くなって、競技者の皆さんにはあの寒い中、余分に待たせてしまうことになった。事情はそういうことなのでご理解願います。

最終組の後に付いて、児玉、高橋、自衛隊の 4 人、それにコントローラの櫻内もいっしょになってフラッグ立て、DP 板、テープの取り付けを急いだ。20 分くらいあとからスタートしたはずのトップ競技者の姿が見えてきたときにはさすがに焦ったが、なんとか最終コントロールまでつけ終わり、ホッ。

競技者が次々にフィニッシュし始めたが、どうやら設置ミスもなかったようで本当にホッとした。支配人もやはり相当に気にしてフィニッシュのところまで見に来てくれた。

最終競技者がフィニッシュすると同時に、スプリントのスタートが始まった。まだ競技に支障になるほど暗くはなかった。こちらのほうもやれやれ。

気になっていた提訴はなく、調査依頼が 1 件あっただけで、この点もホッ。表彰式のための成績確定も終わり、真っ暗な中で撤収作業。

エリート（総合）クラスで優勝したのは勝負強さで定評のある鈴木規弘（多摩 OL）だった。鈴木は前半コースで全問正解ながら競技時間の勘違いから遅刻となり、2 点の減点で 7 位だったが、さすが後半も全問正解で挽回、結局 2 位の伴に 5 秒の差をつけて優勝、今年の世界選手権日本代表の座をほぼ確実にした。

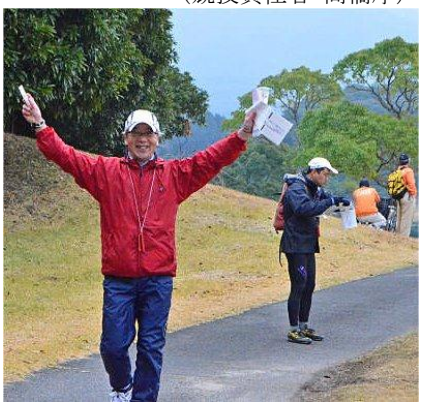
まとめ

遠方での開催のためどのくらいの参加者があるか、大変気にしていたのですが、同じゴルフ場でスプリントが開催されたこともあり、予想を超える 74 名の参加を頂いて大変うれしく思っています。台湾からも 2 名の参加がありました。

競技関係の準備・運営については上述のように大変な大会でした。かかった時間・手間は通常のトレイル 0 大会の 10 倍くらいかかったような気がしますが、とにかく無事に終わって安堵しております。競技以外については「ユニバーサル･スポーツフェスタ in 大村」の実行委員会のほうで取り組んでくださいました。こちらも大変だったことと思います。

ご遠方からご参加いただいた競技者の皆さまはじめ多くの方のご協力で無事に終わったことに感謝しています。

（競技責任者 高橋厚）



記事中の写真はすべて上林弘敏氏撮影